

# ジャパン・コットン

## エコと匠とテクノロジー

⑥

エコロジーの観点からオーガニックコットン使いが広がりをを見せている。どの紡績メーカーも以前から取り扱っていたが、顧客からの要望も増えてきたこともあり、ここに至り戦略素材の一つとしてアピール度を強めている。

シキボウはスーパーマオーガニック100%、ダイワボウノイはインドや米国のオーガニックコットン使いを戦略素材のラインアップに加えている。龍田紡績はオーガニックコットンを10%混ぜた「オーガニックテック」、インド綿のオーガニック100%使いも新たに

打ち出した。「オーガニックテン」は「わずか10%でもオーガニックコットンを使うことで地球環境に貢献できる」との考えから提案

# アピール度増すオーガニック

## 安心・安全へ和綿栽培が復活

していく。

新内外綿はインド綿「パニーオーガニックコットン」を打ち出した。オーガニックのトップ染め、通常のトップ染めとオーガニックの生成り色を混ぜたもの、オーガニック100%

テンセルとの混紡などを提案する。ユニチカテキスタイルはエコロジー繊維リヨセルの「シルフKF」とオーガニックコットンの混紡糸を開発。フジボウテキスタイルは自家工場の超長綿のコーマ工程で取り除かれる落ちワタ使い「カプリコット」とオーガニックコットンとの複合も試作している。

大正紡はインド政府によるフェアトレード・プロジェクト「TMC(ニクニカ・マネジメント・オブ・コンタミネーション)」の下で栽培されるパニー種のオーガニックコットンの取

が自ら原産地の栽培状況を確認している。

馬淵繊維(香川県高松市)は、所有する農園にオーガニックコットンの栽培を開始した。品種は米国アブランド綿、茶綿、緑綿の3種類。収穫時期は10月下旬で、原綿収量は70-80%を見込んでいる。糸は大正紡績が紡績する。

10年前からオーガニックコットンの普及に力を入れてきたのが大正紡績だ。業界で「大正紡」と言えばオーガニック」という認識は高い。世界各国のオーガニック

り扱いても今春から開始している。

ニット、布帛、子ども向けなどOEM(相手先ブランド生産)を含めたトータル提案を行い、大正紡績を中心とした産地企業とのコラボレーションによる商品提案も行っていく。来春夏向けベビー用下着での採用

が決まっている。



讃岐の綿花はエコで安心  
番手「ピヨンド・シルク」など数々の細番手糸や独自の中・太番手糸を高度なジャパントクノロジーを駆使して開発してきた。

ものづくり。オーガニックの和綿、日本が誇る紡績技術、産地の匠の技からどういった商品が出来上がり、今後どういった広がりを見せるか、関係者の期待は高い。(おわり)